

盗難抑止に一役!

古河電工のアルミ導体ケーブル

太陽光発電所で銅線ケーブルの盗難が多発するなか、対策として有効な古河電工のアルミ導体ケーブルが注目されている。現場では実際に効果が出始めているようだ。

EPC（設計・調達・建設）を手掛けつつ、計35MWに及ぶ太陽光発電所を運営するつば電気通信（茨城県土浦市）は2021年年初に古河電気工業グループのアルミ導体ケーブルを採用した。ただ、当初の目的は盗難抑止効果を狙ったものではなかったようだ。

実際、つば電気通信経営企画室の正木大輔室長代理は、「FITの売電単価の減額と、銅の価格高騰を受け、新たに開発する太陽光発電所の建設費削減を目的にアルミ導体ケーブルの採用を検討しました」と語る。

ただその検討の最中に、つば電気通信は茨城県鉾田市内の自社の太陽光発電所でケーブルの盗難に遭ったため、是正工事でケーブルが必要になり、アルミ導体ケーブルを初めて使用した。むろん、同社はアルミ導体ケーブルの盗難抑止効果にそこまで着目しておらず、後に有効性を知るのであるが、それは当時、盗難被害がそう多くなかったからである。

それがこの数年で状況が一変した。関東地方を中心に銅線ケーブルの盗難被害が相次ぎ、今では契約更新時に盗難被害を保険の適用外にする保険会社まで現れ、対策が求められている。

そもそもアルミ導体ケーブルの使用が盗難抑止対策になるのは、アルミの価格が安いからだ。近年高騰している銅の価格と比べ、資

源量が豊富なアルミの価格は4分の1程度だから、アルミ導体ケーブルを盗む価値は低く、結果として盗難の抑止になるのである。

正木室長代理は、「アルミ導体ケーブルは、警備システムと同じく盗難の抑止力になるので、当社ではEPC事業でも積極的に採用しています」とし、これまで盗難被害に遭った19ヵ所の太陽光発電所のケーブルをアルミ製に交換したという。

もっとも、古河電工のアルミ導体ケーブルは被覆が青色で、銅線ケーブルとの違いは一目瞭然だ。太陽光発電所の入口にアルミ導体ケーブルの使用を知らせる看板を掲げると効果があるようで、正木室長代理はこう述べた。

「アルミ導体ケーブルに交換した直後に現場を見回った際、フェンスの一部が破られていましたが、近くのケーブルの配管が切られていただけで盗まれていませんでした。犯人はアルミ導体ケーブルだと気づき、犯行を諦めたのだと思います」。

同社は、こうした盗難未遂を複数の太陽光発電所で確認しているだけに、アルミ導体ケーブルの盗難抑止効果を確信しているのだ。

一方、施工性の向上もアルミ導体ケーブル使用の利点だ。つば電気通信工務部電設事業課の稲葉駿主任は、「銅よりも軽

いため、引っ張り作業が楽になりました。しかも、柔らかく曲げやすいので、狭い場所で端子などを付けやすいというメリットを感じています」とし、ケーブルドラムの搬入回数なども効率化できたという。

古河電工のアルミ導体ケーブルは太陽光発電所になくはない存在になりそうだ。



つば電気通信経営企画室の正木大輔室長代理



つば電気通信工務部電設事業課の稲葉駿主任

古河電工の『らくらくアルミケーブル』

古河電工のアルミ導体ケーブル

『らくらくアルミケーブル』は、軽くて曲げやすい特徴を持つ。太陽光発電所で多く使用されている銅線ケーブルと比べ、30～50%軽く、延線作業時間の短縮による省力化や

そのうえ、盗難抑止効果も見込めるため、太陽光発電所での採用が急増中で、盗難被害後の置き換えだけでなく、新設時から採用事例も増えているよ

うだ。ただし、施工会社が扱うためには講習の受講が必須だ。決して難しいわけではないが、全ての作業が銅線ケーブルと同じではないだけに、講習が必要なのだ。

端子台など周辺部材や工具も続々と揃い始めたほか、同社は在庫を増やし、納期対応を強化している。古河電工業業電線アルミ拡販プロジェクトチームの佐藤仁チーム長は、「早ければ受注から2週間、長くても2ヵ月で納入可能です」と話す。



古河電工のアルミ導体ケーブルは被覆が青く一目瞭然だ

【問合せ先・販売元】

SFCC株式会社 営業本部アルミ拡販チーム
 〒210-0024 神奈川県川崎市川崎区日進町1番14号キューブ川崎5F
 TEL:044-223-0585

【製造元】

古河電工業業電線株式会社 アルミ拡販プロジェクトチーム
 〒116-0014 東京都荒川区東日暮里6丁目48番10号
 TEL:03-3803-1152 <https://www.rakuraku-alumi.com>